

ミュータント

設定日：2000年9月28日

償還日：2025年9月29日

決算日：原則9月27日

収益分配：決算日毎

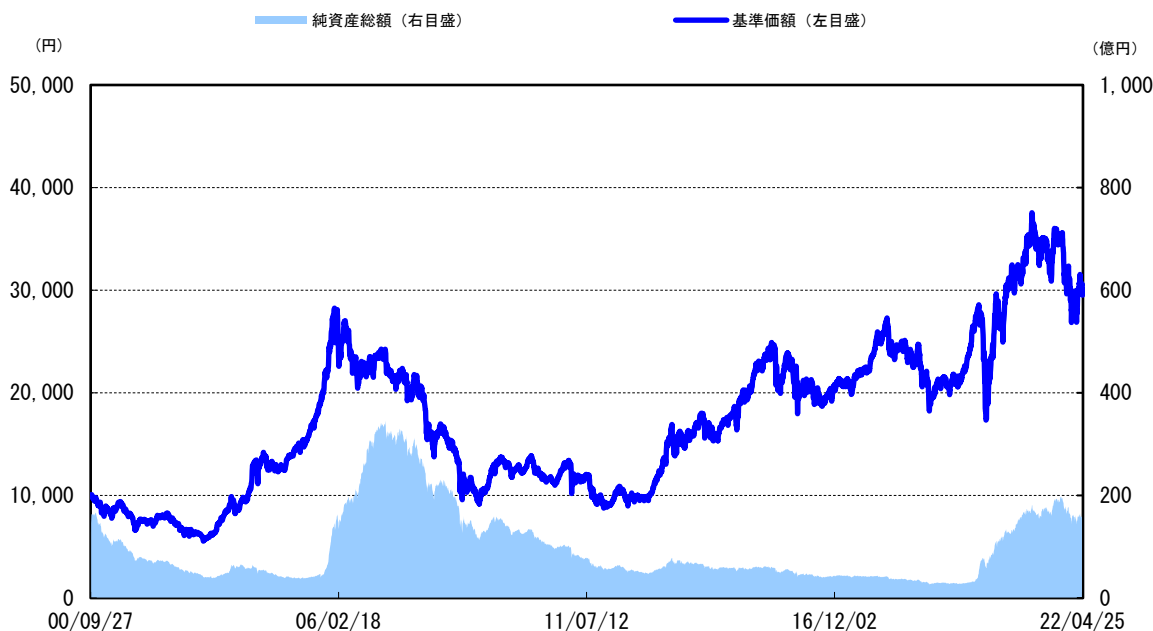
基準価額：19,292円

純資産総額：154.56億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

運用実績

<基準価額と純資産総額の推移>



※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。
 ※基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<基準価額の騰落率>

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
-1.64%	5.10%	-14.05%	-12.56%	39.58%	200.58%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金(税引前)を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<分配金実績(税引前)>(円)

設定来合計	17/9/27	18/9/27	19/9/27	20/9/28	21/9/27
6,550	300	300	300	200	100

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ポートフォリオの内容

<資産構成比率>

国内株式	99.5%
うち先物	0.0%
外国株式	0.0%
うち先物	0.0%
現金その他	0.5%

<市場別構成比率（国内株式）>

プライム	59.8%
スタンダード	18.5%
グロース	21.2%
その他	0.0%

<株式組入上位10業種>

	業種	比率
1	サービス業	44.1%
2	情報・通信業	19.7%
3	その他金融業	8.5%
4	医薬品	7.0%
5	不動産業	5.9%
6	空運業	4.5%
7	建設業	3.3%
8	陸運業	3.1%
9	電気機器	2.4%
10	化学	0.5%

<市場別構成比率（外国株式）>

ナスダック	0.0%
ニューヨーク	0.0%
その他	0.0%

<株式組入上位10銘柄>（銘柄数 48銘柄）

	銘柄	通貨	業種	比率
1	ベース	日本円	情報・通信業	7.09%
2	ビジョン	日本円	情報・通信業	6.43%
3	イオンファンタジー	日本円	サービス業	6.20%
4	東祥	日本円	サービス業	5.91%
5	シノケングループ	日本円	不動産業	5.91%
6	ステラファーマ	日本円	医薬品	5.60%
7	乃村工藝社	日本円	サービス業	5.33%
8	ネットマーケティング	日本円	サービス業	5.30%
9	丹青社	日本円	サービス業	5.21%
10	日本航空	日本円	空運業	4.54%

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

<規模別構成比率>

時価総額	比率
2,000億円未満	86.6%
2,000億円以上 5,000億円未満	5.8%
5,000億円以上 1兆円未満	7.6%
1兆円以上	0.0%

<投資パターン別組入状況>

投資パターン	比率
独自要因による利益成長が期待できる企業	86.6%
マクロ要因による利益改善が期待できる企業	13.4%

※上記「投資パターン」は将来変更になる場合があります。

※詳細はP.4「ファンドの特色」をご参照ください。

※<資産構成比率><市場別構成比率><株式組入上位10業種><株式組入上位10銘柄>の比率は純資産総額を100%として計算したものです。

※<規模別構成比率><投資パターン別組入状況>は組入株式銘柄の評価額の合計を100%として計算したものです。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

※個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。
 ※記載の見解等は、作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<ご参考：組入上位10銘柄の銘柄概要>

1	4481 ベース	ITシステム開発や保守運用などが柱。大手ITシステム会社からの受託案件の割合が多い点が特色。コロナ禍に在宅勤務等を積極的に採用したことで好調な業績が維持されておりその持続性に注目が集まる。
2	9416 ビジョン	情報通信サービス提供会社。新型コロナウイルスの影響で主力のWi-Fiルーターのレンタル需要が海外旅行者向け、訪日旅行者向けともに減少したものの、無人型店舗の拡大でコスト削減を図るなど、渡航正常化を視野に競争力拡大を目指す。海外旅行・訪日旅行の需要改善に注目が集まる。
3	4343 イオンファンタジー	「遊びを通じて、夢と楽しさとふれあいを提案し、地域社会に奉仕しよう」という社是のもと、商業施設内に遊戯施設を運営。日本を中心に中国やマレーシアなど海外にも積極展開。新型コロナウイルスの影響で稼働率が低下し売上が減少したものの、経済正常化による業績改善のタイミングに注目が集まる。
4	8920 東祥	初心者対象のスポーツクラブ「ホリデイスポーツクラブ」を全国に展開。技術の習得や競技力向上ではなく、スポーツを通じた健康づくりを主眼とした店舗運営が特徴。店舗数拡大による成長を目指す。子会社にホテル運営会社や不動産関連会社を有する。
5	8909 シノケングループ	給与所得者向けの投資用アパート販売が柱。駅に近い物件を開発することで高入居率を維持している点が特徴。投資用アパート販売以外にゼネコン、不動産管理、海外事業などを展開。ポートフォリオを拡大させることで成長を目指す。
6	4888 ステラファーマ	ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）向けの薬剤を開発・製造する製薬会社。BNCT用ホウ素医薬品「ステロボロン」の薬事承認を取得済み。現在の保険適用は一部の頭頸部癌に限られるものの、複数の癌を対象に治験を行っておりパイプラインは豊富。BNCTの普及と適応拡大による成長が期待される。
7	9716 乃村工芸社	商業施設やイベント会場などの演出を行うディスプレイ業を営む。企画から施工、管理までをサポートできるトータルソリューションの提供が強み。新型コロナウイルスの影響で商業施設や観光関連案件が減少し同社業績も低迷したものの、経済正常化による業績改善のタイミングに注目が集まる。
8	6175 ネットマーケティング	広告事業（主にアフィリエイト広告代理店事業）とメディア事業（主に恋活・婚活マッチングアプリ事業）が柱。同社はアフィリエイト広告専業である点が特徴。メディア事業ではマッチングアプリ「Omiai」を展開。安心・安全な出会いの場の提供を目指し、会員数の動向に注目が集まる。
9	9743 丹青社	商業施設や展示会等、人が集う場所の空間づくりを手掛ける。企画から設計、施工、運営までをワンストップでの提供体制を構築しており様々な分野のプロジェクトに対応可能である点が特徴。新型コロナウイルスの影響でリアル空間への設備投資需要が急減し売上も低迷したが、設備投資の需要回復による業績改善のタイミングに注目が集まる。
10	9201 日本航空	大手航空会社。新型コロナウイルスによる影響で航空旅客需要が急減したことから、人件費削減や効率的な機材配置等によるコスト削減を実施。航空旅客需要の改善に注目が集まる。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント ※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

4月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比マイナス2.40%の下落、日経平均株価が同マイナス3.50%の下落となりました。米国長期金利の上昇を受けて円安／アメリカドル高基調となり輸出企業の業績改善が期待されたことなどが支援材料となったものの、米国連邦準備制度理事会（FRB）高官の発言などを背景に米国の金融引き締めが加速するとの観測から景気の先行きへの警戒感が強まったことや、中国で新型コロナウイルスの感染が拡大し中国経済の先行き不透明感が意識されたことなどから、国内株式市場は下落しました。

東証33業種分類では、水産・農林業、鉱業、電気・ガス業など9業種が上昇する一方で、海運業、サービス業、電気機器など24業種が下落しました。

◎運用概況

このような環境下、当ファンドは前月末比マイナス1.64%となりました。月中におきましては、各銘柄の業績動向や株価のバリュエーションを勘案し売買を行いました。月間の寄与度で見ると、ネット広告会社やWi-Fiルーターレンタル会社などが上位に入りました。一方、PR関連会社や医薬品会社などが下位に入りました。

◎今後の見通し

ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻が継続しており、状況次第では世界景気を鈍化させる可能性があります。また、依然として収束していない新型コロナウイルス感染症の影響も経済の下押し圧力になる可能性は残っています。一方で、岸田政権による大規模な経済対策が見込まれていることから、2022年の国内景気は不透明感が強い中でも回復基調が続き、株価も底堅く推移する展開を予想します。このような環境下、各銘柄の業績動向や株価のバリュエーションをもとに銘柄を選別し、ファンド価値向上に努めます。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 「ミュータント・カンパニー」となり得る企業へ投資します。**
中長期的なグローバルトレンドの分析を行なうとともに、ボトムアップ・リサーチ、ファンダメンタルズ分析を通じて、「将来、爆発的な変貌を遂げる企業(=ミュータント・カンパニー)」に厳選投資を行ないます。
- 2 中長期での絶対リターンを重視して運用を行ないます。**
特定の株価指数をベンチマーク(運用目標)とした運用は行なわず、中長期にわたる運用期間での絶対リターンを重視して運用を行ないます。そのため、市場の動きとは異なる値動きをする場合があります。
※ここで言う絶対リターンとは、相対リターン(ベンチマークに対してのリターン)ではなく、投資元本に対するリターンを指します。ただし元金が保証されている商品ではありません。
- 3 株式の調査・運用に精通した日興アセットマネジメントが運用を行ないます。**

※国内株式を中心に投資を行ないますが、国内よりも海外に有望企業があると判断した場合には、純資産総額の30%を上限として、外国株式へ投資を行ないます。この場合、原則として為替ヘッジは行ないません。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

ミュータント・カンパニーとは…

- ◎世界で起こるトレンド(大きなうねり)を捉え、進化・成長し続ける企業
- ◎新しいビジネスモデルを構築することにより、自ら市場を開拓する企業
- ◎経営革新に基づき「選択と集中」を実行し、新しい分野に向け変身する企業 など

運用プロセス(日本株式・外国株式)

ミュータントカンパニー(将来、爆発的な変貌を遂げる企業)を発掘

大きく2つのパターンを想定

① 独自要因による利益成長が期待できる企業

経営者のリーダーシップのもと、企業独自の要因によって利益成長が期待できる銘柄

(分析手法)

企業取材などによるファンダメンタルズ分析

② マクロ要因による利益改善が期待できる企業

為替や金利など外部要因の変化によって利益の改善が期待できる銘柄

(分析手法)

世界経済や金融政策などのマクロ環境分析、中長期的な国際的 주요テーマ分析

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額
信託期間	2025年9月29日まで（2000年9月28日設定）
決算日	毎年9月27日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用があります。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%（税抜3%）以内

※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 換金時の基準価額に対し0.4%

<信託財産で間接的にご負担いただく（ファンドから支払われる）費用>

運用管理費用（信託報酬） ファンドの日々の純資産総額に対し年率1.98%（税抜1.8%）

その他の費用・手数料 監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社 日興アセットマネジメント株式会社

受託会社 野村信託銀行株式会社

販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。

日興アセットマネジメント株式会社

〔ホームページ〕 www.nikkoam.com/

〔コールセンター〕 0120-25-1404（午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。）

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- ・ 投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・ 当ファンドは、主に株式を投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

- ・ 株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・ 中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

流動性リスク

- ・ 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・ 一般に中小型株式や新興企業の株式は、株式市場全体の平均に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高いと考えられます。

信用リスク

- ・ 投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

為替変動リスク

- ・ 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

未上場株式などの組入リスク**1) 低流動性資産のリスク**

未上場会社の発行する株式など流動性の低い証券については、保有証券を直ちに売却できないことも考えられます。また、このような証券の転売についても契約上制限されていることがあり、ファンドの資金流動性に影響を与え、不測の損失を被るリスクがあります。

2) 財務リスク

未上場会社の発行する株式などは、会社の沿革、規模などの観点から、社会、政治、経済の情勢変化に大きな影響を受け易く、予想に反し、会社の業績、資金調達などにおいて懸念が生じる場合もあります。このような懸念が生じた場合、時価評価額の見直しが行なわれるため、基準価額が影響を受けることも考えられます。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様にご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第67号	○	○	○	
安藤証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第1号	○			
池田泉州T T証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第370号	○			
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第35号	○			
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
岡三証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号	○	○	○	○
岡地証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第5号	○	○		
岡安証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第8号	○			
極東証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第65号	○			○
光世証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号	○			
静岡東海証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第8号	○			
十六T T証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第188号	○			
株式会社新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○	
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○		○	○
東武証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第120号	○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第121号	○			○
内藤証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第24号	○			○
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者 福岡財務支局長（金商）第75号	○			
八十二証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第21号	○	○		
浜銀T T証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1977号	○			
ばんせい証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第148号	○			
フィリップ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第127号	○		○	
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長（登金）第624号	○		○	
ほくほくT T証券株式会社	金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第24号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
丸三証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第167号	○			
丸八証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第20号	○			
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号	○	○	○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第181号	○	○		
むさし証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第105号	○			○
豊証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第21号	○		○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第8号	○			

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。